

## 新たな日本の産業構造の構築

2010年2月13日

田澤勇夫

バブル経済破綻の後、徐々にピラミッド型産業構造が崩壊し、日本の産業構造が二極化した。一極はグローバル化の言葉で代表されるように、国際競争の激化により生産拠点を海外に移転し、地球規模での最適地生産、そして販売をおこなうグローバル産業構造である。もう一極は地域活性化、地産地消の言葉で代表されるローカル化である。

グローバル化は時代の大きな流れであり、避けては通れない道である。しかし、このことは日本という地域に長い時間をかけ蓄積された技術・ノウハウが海外に拡散することを意味する。蓄積された技術・ノウハウは富の源泉であり、グローバル化とは日本の富の源泉が海外に拡散する側面を持つ。

そこで新たな技術・ノウハウを集積し、蓄積することが重要と考える。その意味で言えば、我が国の科学技術立国の政策は基本的には正しい。しかし、最先端技術の研究開発により日本経済の再生につながる新たな産業構造を構築するには二つの問題点がある。一つは研究開発の成功が必ずしも製品開発の成功につながらず、更に、製品開発の成功が事業の成功につながるとは限らない。すなわち、事業という側面からみれば、最先端の研究開発は非常に不確実性が高い。分かり易い言葉を使うならば、最先端技術の研究開発は“ばくち”である。もう一つの問題は富の源泉である技術・ノウハウの集積・蓄積が難しいことだ。その拡散を防ぐため、特許対策、機密漏洩対策などを行っても結果として最先端技術は拡散、すなわち、グローバル化するのがその根源的な姿である。

では、新たな産業構造の構築のため、どのような技術・ノウハウを集積・蓄積すればよいか。私は企業や個人、そして地域に埋もれている技術・ノウハウなどを掘り起こすことが重要であると考え。今まで産業界では非常に多くの技術・ノウハウを産み出してきた。激しい競争の中で磨き上げた結果、世界のトップレベルに達した技術・ノウハウも多い。しかし、それは産み出された技術・ノウハウのほんの一部でしかない。古いと思われている過去の技術・ノウハウを発掘、集積、蓄積し、そして、これらと最先端技術などの新しい技術・ノウハウの組合せを創造することにより新たな産業が産まれてくるのではなかろうか。

また、これらの新たな組合せを創造するためには、地域共同体を通じた信頼できる人間関係に基づく成熟した生産と消費の関係が必要不可欠と考える。遠く離れて顔が見えない不特定多数の消費者ではなく、顔が見えて信頼関係が構築されている消費者の声を直接、生産者に伝えることは、非常に重要な技術・ノウハウを産み出す。この技術・ノウハウには地域のアイデンティティが注入されることになる。そして、地域の中で磨き上げられた技術・ノウハウの一部はグローバルな市場においても通用し、地域のアイデンティティが強く注入されている分だけ拡散し難いという特徴を持ち、新たな日本の産業構造を構築することになるであろう。